

今月のトピックス

- ・まずは第1弾!! 《かづの産業見合市2011レポート》
- ・まとめと次のステップへ 《鹿角ブランドアップ戦略レポート》
- ・芸術文化も産業に 《鹿角のヒト・モノ情報》
- ・「地域ブランド=?」 《室長のコラム》

ご出展、ご来場ありがとうございました!

“きっかけ”づくり第1弾「かづの産業見合市2011」レポート



本市初開催となった「かづの産業見合市2011」（以下、「見合市」）は、大湯温泉ホテル鹿角を会場に出展50者、約300人のご来場をいただき、無事終了しました。この開催の様子をアンケート結果も交えてレポートします。

雪の舞う中での前日準備。心配された天候も幾分穏やかになった開催当日、そくそくとブース準備に入る出展者の皆さんの表情からはワクワクとした期待感が感じられました。

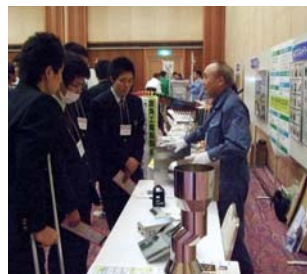
準備も整った10時、いよいよ児玉一鹿角市長の開会挨拶で見合市がスタート。早速出展者同士の“自己紹介”、来場者への商品紹介が始まり会場の熱気も一気に高まりました。



商品開発や連携といったマッチング、売り込んで販路拡大を図る出展者。この積極的な姿勢、熱意やこだわり等を互いに知り合い、感じ合うことが鹿角の産業の地盤固めにつながると確信できる1日となりました。この日は県立小坂高等学校の生徒33名も研修として会場を訪れ、これまであまり知らなかった鹿角の産業について理解を深めました。生徒からのアンケートでは「多様な事業所があることを初めて知った」といった回答が多くみられ、有意義な研修となったようです。



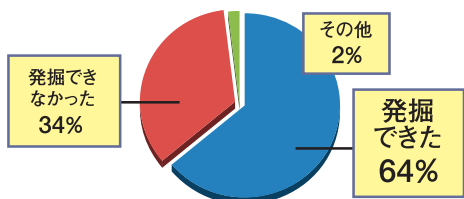
10時30分から同会場内で行われた鹿角ブランドアップセミナーでは、約100名の出席者のもと、(株)DDR代表取締役でブランディングプロデューサーの安藤竜二氏による「サムライ日本プロジェクトに学ぶブランド術」と題した講演会を開催。安藤氏のこれまでの実践とサムライプロジェクトで誕生した商品の数々を通じ、地域ブランドのあり方を学び大好評でした。会場内にはプロジェクト関連商品を多数展示し、多くの来場者が実際に商品等を見てブランド化へのイメージを確かなものにしていました。



《出展者アンケート集計結果》

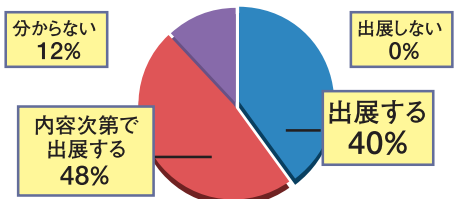
本アンケートは出展者50者（農業13・食品21・工業5・サービス技術11）からの回答を集計、全13（大分類で6）個の設問に対し、得られた回答について集計し、ここではその一部を抜粋し掲載します。

Q.今回の見合市で連携やパートナーとなる可能性のある出展者を発掘できましたか。



項目	回答数
発掘できた	32
発掘できなかった	17
その他	1

Q.次回、産業見合市があれば出展しますか。



項目	回答数
出展する	20
内容次第で出展する	24
出展しない	0
分からない	6

88%

ご意見・ご感想欄（一部）

【全体】

- ・鹿角の食品関係がこんなに多く、活性化しているとは知らなかった。ただ、宣伝にひと工夫あればより良くなったと感じた
- ・他のPR方法や人脈など、得るものが沢山あった
- ・今すぐ連携とはいかないが、市内の業者がどのようなことをしているのかが良く分かり、勉強になった
- ・企画は良いと思うが、効果は難しい。今回を参考に検討する余地があると思う

【開催方法関連】

- ・ブースごとにPRする場面やマイクでの紹介等があった方が、初めての経験の方にはよかったのでは
- ・当日は時間がすごく長く感じたので、セミナー後に来場者と商談、出展者同士の商談など、スケジュールを区切った方がよいのではないかと

【来場・販売等】

- ・鹿角市内の会社の商品、事業に興味のあるバイヤー等の来場があればもっとよかったと思う
- ・卸売業、宿泊関係へもう少しPRしてほしい
- ・販売も可能にした方が出展者もだれにでも済むと思う

【セミナー関連】

- ・セミナーに一番興味のあるのは出展者だと思うので、出展者が後で見られるようにビデオ等があれば良い
- ・講演会を（出展）ブースでも見られるようモニター等をつけてほしい

【その他】

- ・地元高校生の来場は、親がどんな仕事をしているか学ぶ機会にもなるのではないかと
- ・一人での出展だったため、他の事業者のPRシートを見る余裕がなかった。ネット等で見られるようにしてほしい
- ・BGMを流してほしい

【まとめ】

- 出展者の64%が連携先及びパートナーとなる可能性のある事業者を発掘できたと回答
- 連携・協力の内容に関して、商品開発を筆頭に、原料等の調達・供給、技術・サービス等の調達・供給の順となっており、今後望む内容も同様の順であった
- 来場者は当初の目標300人程度となったが、出展者からはやや少ない、少ないとの回答が8割近くを占めた
- 来場を期待する業種として、宿泊施設、外食、流通関連が多くを占めた
- 開催時間については長かった、が約6割であった
- 次回の開催について、出展する、内容次第で出展するとの回答が合わせて約9割
- 開催時期については約8割が今回の11月が適当と回答

アンケートの詳細は市HP:www.city.kazuno.akita.jpで公表しています

今回のチャンスを生かして実を結ぶよう当室も支援しますので、お気軽にご相談ください!

PEOPLE of 鹿角 ヒト情報

フローリストはなまん:店長 阿部純一さん

先日秋田市で開催された第32回秋田県花の祭典フラワーデザイン競技会の部で、見事、東北農政局長賞を受賞した阿部さん。この競技は秋田県内のフラワーデザイナーが技とセンスを競うもので今回の賞は「秋田県で一番」の賞。これまで秋田県知事賞までは何度か勝ち取ったものの、この賞になかなか届かなかったと今回を振り返ります。

「素直に嬉しかった。」と語りますが、その一言にはいろいろな想いが。地元に戻って15年目。家業を継ぎ形で商売を営む中、2001年に東北で初のCEFヨーロッパオランダフラワーデザイナー認定書国際ライセンスを夫婦で取得。ここから阿部さんのフラワーアーティストとしての挑戦が本格化します。

2004年には花業界で夢の舞台とされる「花キューピットジャパンカップ」で見事4位。日本で5本の指に入る成績を残し、2007年にはタイチェンマイ国際園芸博覧会において日本国政府屋内ブース制作メンバーに選出、その才能と技術をいかんなく発揮し、高く評価されました。

地元鹿角でも広く花にふれる機会をもってもらうと、男性を対象にしたアレンジメント教室「一草庵」等を開講、地域の文化祭等でもその作品を紹介するなど、お花を通じた活動を広く展開されています。

でも一方でこうした活動が、しっかりビジネスに結びつけなければ意味がないのではないかと、どこか悩む日々もあったと言います。そんな中での今回の受賞。「やっぱり始めた頃から、花を通じて鹿角から世界に発信する、のが目標だから、まずは日本一にならないと、と思ってはいます。」そのための第一歩がまた、今回の受賞で大きく踏み出せた阿部さん。

これからも目標に挑戦し続ける中、新たに異業種とのコラボレーション、ビジネスの展開を実現したいと話す阿部さんの言葉に、当室としても芸術文化を産業、ビジネスにつなげられるような鹿角でありたい、様々な連携した取り組みを通じて各分野に相乗効果をもたらす機会を創出したいと思いました。

ぜひ一度、「想いをカタチにするフラワーアーティスト」阿部さんのブログ「はなうた」で、その高いセンスにふれてみてはいかがでしょうか。

ブログURL: <http://hana-man.com/> 店舗: フローリストはなまん ☎0186-31-1187



トレードマークは首のストールと笑顔

MADE in 鹿角 モノ情報

大里集落そばの里&浅利佐助商店の大日堂そばセット

本市が今年度から実施している農商工連携ブランドアップ事業の第1号として認定された事業「鹿角産そば使用による大日堂そばセットの共同開発等」。市内で生産が進められているそばを鹿角産そばとして



大日堂そばセット2,500円〜

ての付加価値を高め、ブランドアップに資する商品開発を行うこの事業では、創業明治5年の老舗醸造元浅利佐助商店が大里集落そばの里が生産し商品化する「大日堂そば」に合っためんつゆを開発。9月にはそばの花を眺めながらそばを味わうという県内初の「新そばまつり」を開催し、同時に会場での麺とつゆの商品アンケートも実施し、商品開発につなげました。調査の結果たどり着いためんつゆは、かつおの風味が特徴で、ラベルも大日堂そばに合わせたことで統一感のあるセット商品となりました。

このセットにはさらに期間限定で松館しほり大根が付く商品も。まさに「ALL鹿角味」の商品です。松館しほり大根入りのセットは鳥舞(そば粉5割以上、やまいも入)2袋、権現舞(更科粉)2袋、五大尊舞(一番粉の割合が高く田舎風)2袋、大日堂そばつゆ(500ml)1本、小サイズの松館しほり大根1本が入って2,500円から。鹿角では道の駅かつの売店、いとか、アニモ鹿角店、後生掛温泉売店で販売中です。またFAX、電話での注文も受け付けています。

松館しほり大根のセット商品は今年1,000セットの販売を予定しており、今後一層のブラッシュアップを図りながら、そばの里としての体制づくりに弾みをつけることが期待されます。問い合わせ: 大里集落そばの里 浅石

☎0186-32-2725 FAX 0186-32-2992

【鹿角ブランドアップ戦略レポート】

鹿角ブランドアップ戦略の中で策定メンバーから提案された3つのプロジェクト。その取り組みを毎月レポートします!

コミュニティFM プロジェクト

チームメンバーによる11月の会議では、主に番組編成について協議を重ね、月曜から日曜までの大まかな番組表の骨格が出来上がりました。

12月の会議では番組分野、内容のバランスを考慮しながら、鹿角らしい鹿角のライフスタイルに合った番組の詳細について話し合いを重ねています。

また、送信所(アンテナ)及び演奏所(スタジオ)、社屋の立地候補地についても絞り込みが進められており、年内には見通しを立て、年明けには渉外活動を具体的に始める予定で、2月中旬には広く市民を対象とした(仮)コミュニティFMセミナーを開催する予定です。セミナーの詳細については新聞、市広報、ツイッター、facebook等でお知らせいたしますので、ぜひご注目ください。

桃 花 プロジェクト

11月29日、桃花ワークショップを開催しました。これまで6回と会を重ね、この間、メンバーも当初の3人から、生産者・加工業者・菓子製造業者・JA・商工会・行政機関職員など19人と徐々に増えていき、「かつの北限の桃」に関するそれぞれの立場からの意見交換を行うことで、密な情報共有が図られてきました。

これらの意見交換・情報共有をヒントに、参加メンバーそれぞれにおいて「かつの北限の桃」の新たな価値を見出す取り組みが進められ、流通に乗らない傷のある桃などの試験販売や、缶詰、ゼリー、麺類などの多くの加工試作品が誕生することとなりました。これらの取り組みが一層発展し、付加価値の高い商品開発へと繋がることを期待されているところです。

これからも「桃花ワークショップ」は、桃を中心とした話題を提供しながら、より活発な意見交換と活動を展開していきます。

米 粉 プロジェクト

12月5日にプロジェクトのメンバーが集まり、先月デジハリ大学大学院の佐々木教授から指導頂いたプロジェクトが目指すビジョンや今後の方向性等について協議したところ、最終的な目標である米の消費拡大に結び付けるため、米粉商品と合わせて米加工品もプロジェクトで取り組んでは、との新たな提案等が出され、プロジェクトのより一層の充実を図るため、今後議論を重ねていくことになりました。

なお、11月16日開催のかつの産業見合市には、プロジェクトのメンバーも様々な米粉商品(試作品)を出展し試食等も行いながら、出展者や来場の方々と商談・交流を行いました。

400字のつぶやき

～コラム～

この約半年間で「地域ブランド」、この言葉が指す意味とブランド化のための方法を探るため色んな書籍を読みあさった。しかし、著者により多様な事が言われており、出会った本ごとに思ったり、分かったような気がしていた。そして、色々と試そうとしたが、結局同じような結論を言っているようで、どの方法も今ひとつインパクトにかけ、理想論が多く、結局、誰がそれを行うかで行き詰まる。

そんなモヤッと感漂う中で、このレクスの読者の

皆さんの多大な協力を得ながら、色々な取り組みにチャレンジしてきたが、自分の中では「地域ブランド化」は今だ未知数の部分が多いことは変わっていない。ところが、先日の産業見合市の中で、このモヤッと感を振り払うような運命的な言葉と出会った。

「地域ブランドとは、目をつぶってその地域やモノが自然と目に浮かぶこと」。この言葉は、今回の講師である安藤竜二氏が講演後各ブースを回りながら、目を閉じながら、不意に発したものだ。「これだっ」と思った。心が晴れた気分だった。「目を閉じて何も見えず 悲しくて目をあければあ〜」と誰かが歌っていたが、そうならないよう心がけ、新たな年を迎えたいと思う。(ブラドル)

【発行元】

発行 鹿角市産業連携推進室

電話 0186-30-0264

FAX 0186-30-1515

メール renk@city.kazuno.lg.jp

Twitter@KazunoRenk

Facebookページ 鹿角の【ヒト・モノ・ワザ】

